

ベニマシコ・メス（アトリ科） 全長15センチ

真冬の野鳥観察はなかなか大変です。

寒いのは何とかしのげるが、積雪による道路事情が悪くなり出かける場所もかなり限定されてきます。雄物川の左岸には、大型ダンプがせわしなく通過する道路がありました。日曜日は作業が休みとなることから、野鳥観察には絶好のチャンスである。

時おり日差しが差し込むような天気になると、小鳥たちが活発に動き回ります。岸边に生える柳の枝先に、ベニマシコが現れた。オス1羽とメス数羽。



短いクチバシで器用に種を挟んでいる。

直ぐ撮影に取り掛かったが、オスは飛び去ってしまった。しかしメスはせわしなく枝先を突いていた。

鮮やかな赤い羽のオスに比べると、メスはかなり地味です。ヨモギのような草木に移動すると、枯れた芽から種子をくわえて食べている。あまり栄養価があるとは思えませんが、餌不足の季節には貴重な食べ物でしょう。



小雪の中でも元気に。



後姿。

ベニマシコが飛び去ったあと、今度はエナガが現れました。貴重な時間、小鳥たちは生き延びるのに必死です。



十分に食べたのか、この後飛び去った。



エナガも飛来した。